

---

---

## 令和6年度 白川町教育委員会の活動状況点検評価検討会 報告

---

---

- 1 期 日 令和6年7月8日(月) 午後2時から  
2 会 場 町民会館3階 第1会議室  
3 参加者

<評価委員>

岐阜大学名誉教授	岩田 恵司 様
岐阜大学名誉教授	石川 英志 様

<教育委員会参加者>

教育長	鈴木 雅史
教育課長	大岩 裕樹
教育主幹	渡邊 慶彦
学校再編専門監	玉置 雅野
学校教育係長	鈴木 幸祐
生涯学習係長	山下 直紀

- 4 実施経過 (進行:大岩教育課長)

14:00～ 教育長あいさつ  
14:10～ 自己紹介  
14:15～ 令和5年度活動状況の報告  
◆全体報告  
◆質疑応答・補足説明など  
15:15～ 指導・助言  
16:00～ 教育長 お礼の言葉

- 5 指導・助言

(1) 岐阜大学名誉教授 岩田恵司様より

- ・教育委員会と学校の関係が良好でありとても良い  
会の前に学校訪問をした。「子どもが」「学校現場が」「校長が」元気であった。  
「校長が思い切ってやりたいことをやっている」ことが分かった。白川町教委としてのバックアップが十分なされている。また、若手教師の多くが自主研修

に参加するなど、主体的に行動できていることから、教委のかかわりが適切であることを示している。

- 言葉を大切にしてほしい

「体験を通して」「学校の教育目標」等、変わらないことに意味がある。原点に立ち返って、言葉の吟味をし、込められた願いや意図を考えた上で、提示するようにしてほしい。

- ICT活用の在り方について十分留意する

具体物を操作することが必要な学年、個に応じた指導等、適切な場面、時間、学年等に配慮した上で、活用する。やみくもに使うものではない。意図をもって指導にあたる。時と場合によっては、使わないことの指導も必要である。

- 夢を語れる教育を実践する

主体的に行動したり、仲間と協働したりすることを義務教育の期間に育てることはもちろん、日本人として、どこへ行っても胸を張り、さらに「ふるさと白川」を誇りに思っ生活できる人材を育成してほしい。

## (2) 岐阜大学名誉教授 石川英志様より

- ユニバーサルデザインから一步進める

ユニバーサルデザインは、それを考える立場の人に使う言葉であり、昨今はインクルーシブデザインという言い方をする。いろんな立場の児童生徒（障がいのある子、外国籍の子など）に対しての適切な教育の在り方を考えたい。

- ICTを適切に活用する

ICT機器は子どもの思考の結果を可視化することはできるが、一人一人の思考のプロセスが一瞬にて消されてしまうことがある。戸惑いや間違いは協働的な学習を生み出す元となる。ぜひこの関係も明らかにするような指導をお願いしたい。

- 若手に力を付ける

働き方改革を進めると研修は弱くなるが、白川町は逆の現象が起きている。働きがいにつながっている。これからも大切にしてほしい。

- 食育、読書等の白川らしさを大切し、強みを生かし、魅力ある学校へ

食育や読書と人の生き方をつなげる。町民のアイデンティティとして大切に育ててほしい。与えられたものではなく、自分で求めていけるような取組に変容させてほしい。今後の学校の再編等を考えると「中学生による読み聞かせ」も積極的に行っていてはどうか。地域や年代等、いろいろな文化を生かして高め合ったり、外に向けて発信したりしてほしい。魅力ある学校づくりについて、今後のことも考え、企画立案してほしい。